

お母さんの妊娠中のLDL-C値とお子さんが8歳になったときのLDL-C値との関係について 【エコチル調査の追加調査※1】

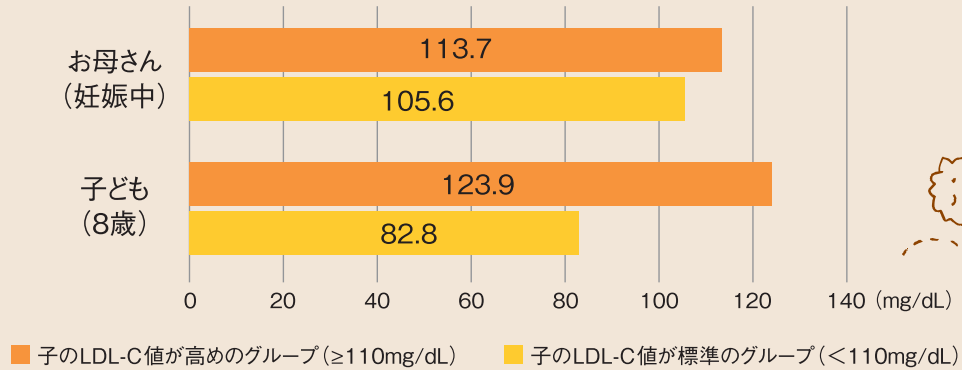
妊娠中のお母さんの悪玉コレステロール (LDL-C) 値が高めであると
お子さんも高い傾向に

高知大学医学部
小児思春期講座 学内講師
大石 拓先生



母子のLDL-C平均値

子のLDL-C値が高めのグループ 213組 vs 標準のグループ1013組)



高知県でエコチル調査の詳細調査に参加して下さっている1226名の母子について、妊娠中のLDL-C値とそのお子さんが8歳になった時のLDL-C値の関係を調べました。その結果、213名(12.8%)のお子さんのLDL-C値が、経過観察が必要である110mg/dL以上とわかりました。また、妊娠中にお母さんのLDL-C値が高いとお子さんの値も高くなる傾向であることがわかりました。このうち540組についてはお父さんのLDL-C値も測りましたが、お父さんとお子さんについては同様の傾向は見られませんでした。

コレステロール値は食生活や生活習慣等で変動しますが、この研究では、コレステロール値がそれぞれ1回しか測れていないこと、食事の情報がないこと、家族歴などについては分析に含めていないため、今後、さらに研究が必要です。

コレステロールは私たちの体の中にある脂質の仲間で、体内での働き方によって、悪玉コレステロール (LDL-C) 善玉コレステロール (HDL-C) に分けられます。肝臓で作られたコレステロールは血液によって全身に運ばれ、余分なコレステロールはまた肝臓に戻り排出されます。その際、善玉コレステロールは、血管の壁などに溜まった余分なコレステロールを取り除いて集め肝臓に持ち帰りますが、悪玉コレステロールは全身に運ぶだけで、使わないコレステロールを血管や抹消の組織に置いてきてしまいます。その結果、動脈硬化を起こす原因となり、その状態が長期間続くと、将来、狭心症や心筋梗塞を発症しやすくなることがわかっています。

先生からのコメント

LDL-C値を下げるためには、食物繊維の多い食品(玄米・納豆・野菜など)、不飽和脂肪酸の摂取(青背の魚・大豆など)を増やし、飽和脂肪酸(肉の脂身・バター・やし油など)を減らしましょう。また、運動不足や喫煙によりHDL-C値が下がるので、日々の運動を心がけ、大人は禁煙をする、お子さんの受動喫煙を避けることも大切です。食生活、生活習慣を変えてもお母さんの高いLDL-C値(180mg/dL以上)が続き、また、家族歴がある場合には、主治医に相談をするようにしてください。

参考文献：小児家族性高コレステロール血症ガイドライン2022
(https://www.j-athero.org/jp/wp-content/uploads/publications/pdf/FH_G_P2022.pdf)

引用論文:Taku Oishi, et al. Association between Maternal LDL Level during Pregnancy and Offspring LDL Level at Age 8. The Tohoku Journal of Experimental Medicine. (2024) DOI: 10.1620/tjem.2024.J052

※1追加調査:エコチル調査参加者にご協力いただき、高知大学独自で実施している調査

環境省エコチル調査ホームページ
(全国の成果発表一覧)



こうちエコチル調査ホームページ
(学術論文)

